

【新着情報】

6月武漢にて「華創会」を開催：

5月30日、華僑弁公室の発表によると、6月28日から29日、第7回華僑専門家創業発展懇談会(略称：華創会)が武漢にて開かれる。この会には世界各地から華僑や華人の専門家、ビジネスマン及び省内外の華人会の代表者が2000人以上参加することが予想されている。

現在、海外における交流プロジェクトが350件以上、国内の提携交流プロジェクトは1000件以上あり、全てインターネット上で公表されている。今回の「華創会」では、特にハイテク事業の促進と交流に力を入れている。

また、今年、華創会は「武漢フォーラム」を主催します。テーマは「華僑・華人の中部勃興と両型社会における役割」でマスコミによるインタビュー形式により進行していく。他にも特別開催として、「世界中文マスコミエリートフォーラム」や「国際人材交流会」などが開かれる。これには、今まで個人として参加していた中国旅美科技協会(アメリカにて登録されている在米華僑・華人科学者及び研究者の協会)、米中自動車交流協会等の有名な団体も、団体として初めて参加する。(6月1日)

自然にやさしいビニール袋の生産使用を奨励：

6月1日に「ビニール袋制限令」が実施され、全国にあるビニール袋製造業界が新たな局面を迎えている。6月2日、武漢市環境保護部門の発表によると、武漢市では地方条例に基づき、分解可能なビニール袋の生産使用を奨励している。

武漢市では毎年15億ものレジ袋が消費されており、そのうち5、6億枚はスーパーにて使用されている。国家における両型社会(環境保護社会及び資源節約型社会を両立する社会)建設についての試験区域に指定されている武漢市は、「ビニール袋制限令」の制定をきっかけに、分解可能な環境保全型のビニール袋を積極的に普及させていくことにしている。

現在、各自治体ではこの自然にやさしいビニール袋についての地方条例を積極的に制定し、このビニール袋を生産、使用する企業や消費者を支援している。

武漢市には比較的大規模なビニール袋製造企業が10社あり、年間生産量は10万トン以上にのぼる。これらの企業が全て自然にやさしいビニール製造に移行した場合、大規模な環境保全ビニール袋を製造する企業群が形成されることになる。

(6月3日)

来月、貨物運輸専用駐機場の運用開始 武漢天河空港：

武漢に到着する貨物専用輸送機のための専用駐機場が開設され、7月以降、旅客機とは別の場所に駐機が可能となる。

貨物駐機場の面積は4万㎡、給油専用パイプなどの設備が建設され、世界最大級の民間貨物運輸機ボーイングB747-400系の駐機が可能となり、B737機では、2機同時に駐機することができるようになる。

この専用駐機場の開設に合わせ、武漢初のエアカーゴ会社である武漢友和道航空会社が、来月、ボーイング747貨物運輸機を3機購入。間もなく一番機が投入される予定で、順次、武漢からヨーロッパ、アフリカ、アジアなどの国への路線に使用される。

2007年の武漢天河空港の貨物輸送量は89,595.7tで、全国17位だったが、貨物専用駐機場が運用すれば、年間32万tのニーズに対応可能となる。(6月5日)